慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	追悼 岩男壽美子先生 : 岩男壽美子先生を悼む
Sub Title	
Author	澤井, 敦(Sawai, Atsushi)
Publisher	慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所
Publication year	2018
Jtitle	メディア・コミュニケーション : 慶応義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要 (Keio media and communications research). No.68 (2018. 3) ,p.115- 116
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA1121824X-20180300-0115

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

追悼　岩男 壽美子 先生

岩男壽美子先生を悼む

澤井　敦

かつての新聞研究所の時代を含め，メディア・コミュニケーション研究所に 40 年近く勤務され，現在は名誉教授であられた岩男壽美子先生が，2018 年 1 月 11 日，逝去された。享年 83 歳であった。

岩男先生は，慶應義塾大学文学部を 1957 年 3 月に卒業後，フルブライト奨学生として米国に留学，イェール大学の大学院で心理学を専攻され，1959 年に修士号，1962 年に博士号を取得された。その後，ハーバード大学人間発達研究所所員，同大学教育学部大学院インストラクターの職を経て 1963 年 3 月に帰国され，同年 4 月より当時の新聞研究所（現在のメディア・コミュニケーション研究所）の助手に就任された。さらにその後，1965 年に専任講師，1968 年に助教授，1975 年に教授に昇任され，1999 年 3 月をもって退職され，名誉教授となられた。その間，1978 年より 1993 年までは，本研究所の副所長もお勤めになっている。研究所内ではもちろんのこと，岩男先生はまた，慶應義塾大学の文学部や社会学研究科でも社会心理学，異文化コミュニケーションなどの講義や研究会を担当され，ひろく塾生の教育に貢献された。

岩男先生のご専門は社会心理学である。研究上のご関心はたいへんに幅広く，そのひろがりは個人内の認知システムといった問題から，マス・メディアにおける暴力描写や被害者報道のあり方，異文化接触場面での葛藤や誤解などの問題にまで及んでおり，多様な領域にわたって多くの業績を残された。『テレビドラマのメッセージ――社会心理学的分析』（勁草書房，2000 年），『日本で学ぶ留学生――社会心理学的分析』（勁草書房，1988 年，萩原滋名誉教授との共著）など，多くの著作が公刊されている。また，岩男先生は，「女性学」の草創期において，その日本への導入，さらに国際女性学会の設立にも力を注がれ，女性の社会進出に関わる制度的・社会的問題についての先駆的な研究を数多く著された。共編著である『女性学キーワード』（有斐閣，1997 年），そして，Free Press から 1993 年に出版された，*The Japanese Women: Traditional Image and Changing Reality* など，この分野においても多くの著作が公刊されている。

さらに，こうした研究に関わるご活動と共に特筆すべきであるのは，政府機関をはじめとする大学外での岩男先生の，広範にわたる，多大なるご活躍である。男女共同参画審議会会長，国連特別総会「女性 2000 年会議」日本政府首席代表，国家公安委員会委員，外務人事審議会委員，「皇室典範に関する有識者会議」委員など，その例は枚挙に暇がない。

最後に個人的なことを記させていただけば，筆者が慶應義塾大学文学部に入学後，2 年次に社会学専攻へと進んだ 1981 年，三田キャンパスで，必修科目であった岩男先生の「社会心理学概論」を受講する機会をえた。「認知的不協和」など社会心理学の基本的な概念や考え方を，淡々と，しかしながら，具体的な例を交えて明快に解説される先生のお姿や語り口は，今でもある種の懐かしさとともに，はっきりと思い出すことができる。そうした先生のお姿を近年，たまたま拝見したのが，大手通販サイト Amazon の特集ページに 2016 年 8 月に掲載された，「学びこそが革新への近道」と題された記事であっ

た。そこでは2008年から岩男先生が尽力された，タンザニアに女子中学校を開設する活動が紹介されている。「長年教師をしてきましたが，まさか，自分がアフリカで女子教育に携わることになろうとは，思ってもいなかったですね」と仰りつつも，岩男先生は，「教育が一番効率的な支援だと思うのです。物資を支援しても，利益を受けるのは一世代だけです。でも教育は，教育を受けた本人だけでなく，子どもや孫，そしてその周囲の人たちにも影響を与えることができますから」と述べておられる。この記事に初めて接した折，そこに添えられた岩男先生の，本当に晴れやかで素敵な笑顔のお写真を，かつての一学生としてとても懐かしく拝見すると同時に，そこに記された尽きることのない教育への思いに，いまは先生と同じキャンパスで一教員として働く身として，襟を正した次第である。

岩男先生のご冥福を心よりお祈り申し上げたい。

澤井　敦（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所長，法学部教授）